



VJU 学務課通信

★ご報告

2017年 第1回入試が終了。44名が合格

3月18日（土）から21日（火）まで、2017年第1回目の入試が行われ、多くの皆様のご協力のもと無事終了しました。各プログラムの出願・合格状況は次のとおりです。

プログラム	出願数	合格数
地域研究 MAS	7	4
環境工学 MEE	8	7
社会基盤 MIE	7	5
ナノテクノロジー-MNT	3	3
経営管理 MBA	16	11
公共政策 MPP	17	14
合計	58	44

出願者が少なかった要因として、（1）入試情報の開示から出願期日まで時間がなかったこと、（2）VNUの許可がでるまで、入試説明会の活動開始ができなかったこと、（3）VJUでの勉強が厳しいという1期生のコメントを逆手に取れなかったこと、（4）未来像を画きにくい、などさまざまな点があげられると思います。

今後は、学生募集計画や効果的な入試説明会の計画等が必要かもしれません。

※「入試募集要項・選考基準等について変更したい点」、「入試についてのお気付き点」がございましたら、プログラム内でまとめていただき、VJU 教務副部長の Hung 氏（Email address: dq.hung@vju.ac.vn）にご連絡ください。

日本語カフェを実施（3月8日）

日本語教育プログラムでは定期的に外部から人を招いて「日本語カフェ」を実施しています。今回は人材紹介大手様にお勤めの方2名と、短期派遣で来られている先生がお越し下さり、学生さんとのやり取りをしてくださいました。

MBA プログラムで工場見学を実施（3月6日、3月8日）

MBA プログラムでは、学生たちはベトナム式のマネジメントと日本式のマネジメントを学ぶために2つの工場見学を行いました。

3月6日に MBA プログラムの学生は、横浜国立大学の学生と UEB の学生とともにソントイ地区にある配線器具製造企業である VINAKIP を訪問しました。

3月8日には第2タンロン工業団地にある産業車両製造企業である Toyota Industrial Equipment Vietnam の工場を訪問しました。

どちらの工場見学においても、学生からはたくさんの質問が出され、学生達はそれぞれのマネジメントに対する理解を深めることができました。

茨城大学学生との交流を実施（3月9日）



3月9日（木）に茨城大学の学生12名と教員2名が本学を訪問し、栗飯原先生の上級アカデミックジャパニーズの授業に参加しました。

授業では、「ライフサイクルの経済学」をテーマに日本のゼミナール形式で意見交換を行い、盛り上がりました。今後もこのような形の交流を続けていきたいと考えています。

日本人学校訪問（3月14日）

3月14日（火）にJICA専門家とVJUスタッフでハノイ日本人学校を訪問し、日本の教育現場を見学しました。4月には日越大学で教育政策や教育機関運営を学んでいる学生も訪問予定です。



茨城大学・筑波大学・横浜国立大学の皆様とのコミュニケーション・ミーティングを実施（3月18日）（27日）



3月18日（土）に、VJUスタッフと茨城大学学術企画部企画課兜木氏、筑波大学国際室松澤氏とのコミュニケーション・ミーティングを実施しました。両大学の紹介のあと、入試や日本の大学組織等について意見交換を行いました。スタッフからは熱心な質問がだされました。

また、3月27日（月）には、横浜国立大学・経営学部IPOの永野氏とMBAスタッフとのミーティングおよびVJUスタッフとのコミュニケーション・ミーティングを実施しまし

た。自己紹介の後、VJUの現状についての意見交換を行いました。

VJUスタッフからは、次回以降はテーマを設定して、いろいろな話をしてみたいなどの要望がありました。

MIEプログラムでハイフォンの現場視察を実施（3月21日）

3月21日（火）に日本大使館のアレンジで、「質の高いインフラ」の視察として、ハイフォンにある日本企業の橋桁製造工場とLach Huyen港までの海上橋を視察しました。MIEの学生7名、MPP1名、講師、スタッフで合計17名が参加しました。学生は、整理された製造現場視察でき、また、日本企業が得意とする「鋼管矢板工法」について理解することができました。



MBA 田名部教授に大学運営体制についてお話しいただきました（3月27日）

3月27日（月）に、職員研修の一環として、横浜国立大学国際社会科学研究院田名部教授に横浜国立大学様の（1）大学運営体制、（2）関係部署との協力体制、（3）情報共有の流れ、についてお話しいただきました。

具体的なお話を伺い、参加者からは「運営組織」や「ベトナムとの比較」に関する質問だけでなく、「アメリカの大学における意思決定や学長・部局長の権限との比較」についての質問などもあり、当初予定の1時間半があっという間に終了しました。その後の食事会においても、質問がなされており、参加した副学長やスタッフからは、複雑だが非常に興味深い内容で、他の幹事校や協力校のお話も聞きたいという要望がありました。



JASSO（日本学生支援機構）ベトナム事務所開所式に参加（3月27日）



3月27日（月）に JASSO（日本学生支援機構）ベトナム事務所開所式がハノイ市内のホテルで行われ、日越大学からは、小樋山 CA、片山専門家（MEE）、ビン専門家（MIE）、日野専門家（MBA）、粟飯原専門家（日本語）らが参加しました。本学への受け入れ、本学学生の博士課程への留学支援等において JASSO と連携を図っていきたいと考えております。

★お願い

3月31日締め切り

「インターンシップ・シラバス」の作成

「インターンシップ期間中の日本企業での就労体験等」のご検討
ご協力の程よろしくお願いいたします。

★お知らせ

学生募集関係

4月15・16日にハノイでの春祭りで日越大学のブースを出展します。VJUの魅力をアピールするとともに、幹事校の魅力もお伝えしたいと思います。

各プログラム、または幹事校の PR 資料がございましたら、下記のプログラム調整員までご連絡のうえ、4月12日までに日越大学に資料が届くようお願いいたします。

♪スタッフより

Dr. Pham Viet Dung (Mr.) Academic Officer/S&T Promotion Officer

3月末で退職されるアカデミック・オフィサー Dung さんからのメッセージです。

My name is Pham Viet Dung. I graduated doctoral course in Soil Physics at Hokkaido University, Japan. I have been working in Vietnam Japan University (VJU) from March, 2015 as an admission officer in Department of Academic, Research and Development Promotion. At first time at VJU, called Vietnam Japan University Management Board at that time, I started working as a specialist in charge of developing a master's program in Environmental Engineering and was supporting to prepare necessary conditions for open VJU. After 2 years working here, I really accumulated a lot of valuable experience from many assigned tasks, such as admission and enrollment, academics and training activities, teaching assistant, etc. VJU is considered as a new model with many differences from present



universities, especially in liberal ideal in education. I recognized that VJU created a new cooperative and competitive environment for everyone not only people of Vietnam and Japan but also people in all over the world. I have learnt a lot from a tiny thing like how to arrange a lecture that have participation of Vietnamese and Japanese professors to a big thing like how to organize and manage a university with high cooperative and interdisciplinary characteristic. These lessons will be very useful for my activities in research, education and collaboration in the future."

本レターに関して、ご意見やご要望等ございましたら、プログラム調整員（福田・田中）までお願いします。
fukuda.vju@gmail.com kztanaka01@gmail.com